

◆団体基本情報

No.	20	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市公園緑地協会			
所在地	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪一丁目3-35							
電話番号	022-293-3583		FAX番号	022-293-3605		所管 部局	建設局	
団体ホームページ	https://sendai-green-association.jp/				百年の杜推進課			
代表者職氏名	理事長 佐藤 秀樹			設立年月日		昭和42年10月7日		
基本財産等		118,000 千円		市の出捐額（割合）		59,000 千円 （ 50.0 %）		
設立 目的	都市緑化及び公園緑地等に関する事業を通じて、市民生活に安らぎと潤いをもたらし、あわせて緑の文化を発信する。							
事業 概要	都市緑化及び公園緑地等に関する普及啓発、利用促進。 公益目的事業の推進に資するための収益事業等。（公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律別表（第2条関係）第2号の公益目的事業に該当）							
評価対象決算期		令和7年4月1日～令和8年3月31日						

◆人員等の状況

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①常勤役員数	2 人	3 人	3 人
うち市派遣	0 人	1 人	0 人
市退職者	2 人	2 人	3 人
②常勤役員平均年齢	61.0 歳	62.0 歳	63.3 歳
③常勤役員平均年間報酬	5,914 千円	5,928 千円	5,673 千円
④職員数	139 人	137 人	130 人
うち市派遣	0 人	1 人	1 人
市退職者	9 人	7 人	5 人
⑤職員平均年齢	55.5 歳	55.6 歳	55.2 歳
⑥職員平均年間給与	3,204 千円	3,383 千円	3,528 千円

◆主要財務データ

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①当期経常増減額	1,212 千円	4,473 千円	4,480 千円
②当期経常外増減額	0 千円	△ 726 千円	△ 283 千円
③当期一般正味財産増減額	940 千円	3,475 千円	3,925 千円
④一般正味財産期末残高	125,146 千円	128,621 千円	132,546 千円
⑤指定正味財産期末残高	59,000 千円	59,000 千円	59,000 千円
⑥正味財産期末残高	184,146 千円	187,621 千円	191,546 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①市からの補助金	13,598 千円	14,131 千円	14,493 千円
②市からの委託料（指定管理料含む）	1,197,362 千円	1,252,873 千円	1,157,111 千円
③市に対する収入依存度	77.16 %	77.06 %	74.47 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和7年度事業費
緑化普及啓発事業	花壇づくり助成事業、緑化コンクール事業、記念樹交付事業	44,803 千円
公園緑地等運営事業	野草園、太白山自然観察の森、青葉の森緑地、七北田公園及び各区運動施設公園等の管理運営	642,906 千円
墓園・斎場運営事業	葛岡墓園、北山霊園、いずみ墓園及び葛岡斎場の管理運営	469,038 千円
収益事業	八木山動物公園等における売店、食堂、駐車場の管理運営	397,392 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	第5次中期経営計画において位置付けた重点事業（20事業）について、成果指標に基づき、自己評価票を作成し進行管理を行いながら、「緑溢れる住みよいまちづくり」の実現に資するよう、都市緑化の推進と緑化普及啓発事業等を着実に展開した。また、新緑祭や各種コンクールの実施や、みどりに関する情報発信を通じた緑化普及啓発事業を推進した。野草園においては8年ぶりにガイドボランティア養成講座を実施・育成し、ボランティアと協働で野草園の魅力発信に努めた。斎場・墓園では、厳粛な雰囲気を保ちつつ、訪れる方々の心情に配慮した丁寧な管理運営を行い、公共施設としての役割を適切に果たした。他にも、職員が持つ専門知識を活用し各施設で講演会やイベント等の実施や、地域団体やNPOなどと連携し多様で質の高いサービスの提供を行っている。	全所管施設・イベントごとのアンケート調査など、ニーズ把握・分析を業務に活かすとともに、SNSを活用した発信など創意工夫を行いながら各種講座やイベントを実施するなど緑の普及・啓発、利用満足度向上に向け積極的に取り組んだ。引き続き次年度以降の活動の充実に期待する。
2. 業務・組織管理	協会の組織・財務強化を図ることを目的として策定した第5次中期経営計画に基づき適切に業務を行った。正職員の採用にあたっては、年齢構成や業務経験のバランスを考慮し、社会人経験者を採用した。組織の活性化と即戦力の確保に努め、職員層を厚くしたことで、安定的な組織体制を構築した。また、法令順守の徹底に向け、コンプライアンス研修、懲戒に関する指針の周知や倫理サービスチェックシートを実施し、不正防止やコンプライアンス意識の向上を図るなど、組織管理体制の整備と強化に努めた。	第5次中期経営計画に基づき、安定した運営が行われており、OJTによる職員の能力アップにも取り組んでいることが評価できる。引き続き適切な業務体制の維持やコンプライアンス強化を継続するとともに、積極的な先進地視察や表彰制度の活用など、職員の資質やモチベーション向上に取り組み良好な組織風土の醸成に努められたい。
3. 財務状況	令和7年度は、指定管理事業において、スタジアム・体育館の事業が非選定（令和6年度）となり、その一般管理費を損失したため、資産（内部留保）の減少があった。収益事業では、安定した利益確保のため原価率の精査をし年度内で2回程度、販売価格の見直しを行った。	スタジアム・体育館の指定管理が受注できなかったことによる内部留保の減少に対し、引き続き、収益事業での取組み等により対応いただき、公益事業への還元できるよう取り組んでいただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	公園緑地等に関わる公益財団法人として、行政と市民をつなぐ役割を果たしながら、質の高い市民サービスを提供し、緑溢れる住みよいまちづくりに貢献していく。あわせて、協会経営の効率化と経営基盤の安定化を図るため、収益事業での利益向上に取組み、その利益により公益事業の充実化を図ることにより、団体の存在価値を高めていく。また、職員の専門性向上や人材育成に取り組むとともに、公益充実資金の確保・活用を含めた中長期的な財務計画の検討が今後の課題である。	今後もみどりに関わる公益財団法人としての独自性、優位性を認識し、これを十分に発揮しながら、より利用者の満足度につながる事業改善や、収益の向上、自主事業の取組みに積極的に努め、あわせて職員の能力向上や管理職への積極登用など管理運営体制の充実に継続して努められたい。